

# 2020年 7月

(アルバム p47~51)

調査対象							その他	計
ほ乳類	鳥	は虫類	両生類	魚類	対象の虫	対象の野草		
	10	5		1	40	5	28	89件

## 【鳥】

- ・ほぼ毎月確認されるアオサギやカワセミ、春の渡り以来夏場も子育てを続けるツバメ、ハクセキレイの若鳥などが季節を代表する鳥といえます。
- ・6月に引き続きヒドリガモの投稿があり、この季節には異色です。

## 【は虫類・両生類】

- ・トカゲの仲間は盛夏に活発に活動するため、目に入りやすいのでしょうか。
- ・両生類はこの季節、草の茂み、森や林の内部にすることが多いためか投稿なしです。

## 【魚類】

- ・今月もアブラハヤの投稿がありました。豊富に生息する場所があることがわかります。

## 【対象の虫：チョウ・トンボ・セミ・カメムシ・ホタル・タマムシ・カブトムシ・クワガタ・バッタ】

- ・市内では希少になっているオオムラサキやクルマバッタの投稿があり、しっかり命を繋いでいるのがわかる記録となりました。
- ・雨続きの中、この時期にしてはセミが少なめでした。

## 【対象の野草：タンポポ・ジュウニヒトエ・ノアザミ・ヤマユリ・キツネノカミソリ・ゲンノショウコ・ワレモコウ・カラスウリ・タマノカンアオイ】

- ・シロバナタンポポのそう果（種子）は他のタンポポ類より一回り大きく、顕著なトゲが側面にあることでそれと見分けることができます。
- ・ヤマユリは小雨の続く日々に咲き始めます。今年は梅雨明けが遅く、気温も抑えられていたため、開花期間も非常に長かった印象があります。

## 【その他】

- ・夏らしいガの中でも大型で特徴のあるスズメガも目立つのか2点もありました。
- ・里山の雑木林を生育環境とするオオバノトンボソウの投稿がありました。
- ・腐植の蓄積した林床に稀に見られるトサノクロムヨウランですが、近年クロムヨウランと区別されるようになったもので、閉鎖花しか着けないクロムヨウランに対し、きちんと平開する花を着けます。
- ・ツユクサの白色品であるシロバナツユクサの投稿がありました。
- ・今月も外来種のアメリカオニアザミの投稿がありました。
- ・オオミスジコウガイビルは中国南部原産の外来種で、ミミズやナメクジを食べて生活しています。1960年代から東京で目撃されるようになったそうですが、近年、目にする機会が増えているような気がします。



ハクセキレイ 若鳥



ヒガシニホトカゲ



オオムラサキ



ヤマユリ

# 2020年 8月

(アルバム p52~60)

調査対象							その他	計
ほ乳類	鳥	は虫類	両生類	魚類	対象の虫	対象の野草		
	28	6			92	4	34	164件

## 【鳥】

- ・アオゲラ、サンコウチョウ、モズ、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、イソヒヨドリ、スズメなどの投稿があり、これらは、里山に生息するおなじみの留鳥、あるいは夏鳥として渡来する渡り鳥などとなっています。
- ・サンコウチョウは、目の周囲のアイリングが未発達なため幼鳥と考えられます。
- ・2019年に続き、本来海岸性の野鳥であるイソヒヨドリの投稿が寄せられていますが、内陸での目撃例も多く、一部が定着しているものと考えられます。

## 【は虫類】

- ・毒蛇として有名なニホンマムシは絶滅危惧種に指定されている希少種でもあり、投稿は初めてです。

【対象の虫：チョウ・トンボ・セミ・カメムシ・ホタル・タマムシ・カブトムシ・クワガタ、バッタ】

- ・チョウとトンボの投稿が多く、特に大型で撮影しやすいコオニヤンマの投稿が多く届きました。
- ・秋が近づいてくると、大型カマキリ・バッタの投稿が増えます。
- ・カトリヤンマなど、黄昏ヤンマとも言われるトンボは昼間は暗いヤブで枝にぶら下がっていますが、見つけることは難しいです。

【対象の野草：タンポポ・ジュウニヒトエ・ノアザミ・ヤマユリ・キツネノカミソリ・ゲンノショウコ・ワレモコウ・カラスウリ・タマノカンアオイ】

- ・ヤマユリが下火となりました。
- ・ちょうど開花期となるキツネノカミソリが寄せられました。気候条件が適していたのか、今年各地で開花が旺盛だったような印象があります。

## 【その他】

- ・ルリモンハナバチ、ハイイロゲンゴロウなど、ちょっと撮影が難しそう面白い投稿もありました。
- ・カマキリが成虫になりバッタの仲間の投稿も増えて秋の兆しが見えてきました。
- ・オオミノガは対象外ですが、いまや絶滅危惧種となったミノムシなので貴重な投稿です。
- ・イラガやチャドクガなども目立つ季節なので、撮影の際は気をつけましょう。
- ・秋を先取りしたようなナンバギセルやツリガネニンジンの花の開花情報が届きました。
- ・ヤマホトトギス、ヤブラン、ノハラアザミ、アキノタムラソウは、いずれも里山の在来種で夏から秋の草地・林縁に生育する多年草です。



サンコウチョウ 幼鳥



ニホンマムシ



コオニヤンマ



ナンバギセル

2020年  
9月

(アルバム p60~71)

調査対象							その他	計
ほ乳類	鳥	は虫類	両生類	魚類	対象の虫	対象の野草		
1	28	3	3		130	12	42	219件

【ほ乳類】・アライグマの特徴的な後ろ足足跡の投稿でした。

#### 【鳥】

- ・繁殖地に帰り損ねた可能性があるコガモが投稿されています。
- ・アオバズクは、フクロウ類全体として初の投稿です。
- ・毎月必ず投稿のあるカワセミも多く雌雄それぞれの個体が投稿されています。
- ・秋以降に里山での活動が活発化するモズやオナガの投稿から季節の移ろいを感じます。
- ・エゾビタキは多摩丘陵部では渡りの途中9月頃に投稿されることの多いヒタキ科の鳥です。

#### 【は虫類】

- ・人間の生活圏に近いところに生活するトカゲの仲間が投稿されているという印象です。
- ・ヘビ、カメの仲間はまだ活発に活動をしている季節ですが、投稿はありませんでした。

#### 【両生類】

- ・シュレーゲルアオガエルは単子葉植物の葉先で日向ぼっこをする姿がよく見られます。
- ・ニホンアマガエルも、体色が樹皮に合わせて変化しているのがよくわかる記録です。
- ・ツチガエルは、町田市内でもっとも絶滅が懸念されるカエルの仲間で、豊かな里山と安定した小河川が存在することが生息の条件です。

【対象の虫：チョウ・トンボ・セミ・カメムシ・ホタル・タマムシ・カブトムシ・クワガタ・バッタ】

- ・アオタテハモドキは亜熱帯性でここでは迷蝶です。越冬できないので世代を継いで増えることはないと考えられますが、興味深い投稿です。
- ・アカネ類が赤くなり、秋らしくなってきました。

【対象の野草：タンポポ・ジュウニヒトエ・ノアザミ・ヤマユリ・キツネノカミソリ・ゲンノショウコ・ワレモコウ・カラスウリ・タマノカンアオイ】

- ・ワレモコウ、ツリガネニンジンなどの秋の草原で一際目立つ野草に投稿が集中しました。
- ・ゲンノショウコは茎が地を這っており、目に着きにくいかもしれません。

#### 【その他】

- ・バッタ、カマキリ、キリギリスの仲間は特に秋が深まってくるとたまに赤色型が出現します。今回はカマキリとキリギリスの色変わり型の投稿がありました。
- ・ツルボ、ナンテンハギは秋を彩る草原性の野草です。キツネノマゴやヤハズソウなど路傍雑草や、センニンソウ、ノハラアザミ、ヤマホトトギス、オトコエシなどの投稿は里山の草地や林縁に自生する在来の草本類としておなじみです。
- ・キバナコスモスは園芸種ですが、河原や空地、畑地周辺などに野生化もしている一年草です。
- ・甲殻類でまだ脱皮後まもないと思われるサワガニの投稿がありました。



アオバズク



シュレーゲルアオガエル



ヒメアカネ



ワレモコウ



# 2020年 10月

(アルバム p71~78)

調査対象							その他	計
ほ乳類	鳥	は虫類	両生類	魚類	対象の虫	対象の野草		
4	38	1	2		71	6	25	147件

## 【ほ乳類】

- ・アライグマは9月に続き特徴的な後ろ足足跡によるフィールドサインの投稿で、湿地や田んぼなどに好んで出現していることがわかります。

## 【鳥】

- ・鮮やかなイチョウ羽姿となったオシドリの投稿もありました。
- ・バン（若鳥）の投稿が興味深いです。
- ・関東以南で冬鳥として渡来するアリスイの初めての投稿がありました。地上や朽ち木などでアリを食べるキツツキの仲間です。
- ・冬鳥として渡ってきたばかりのジョウビタキ、山から里に下りて見張り番行動の目立つモズ、冬鳥としておなじみのアオジの投稿などが季節的な特徴です。
- ・渡りの途中の珍しい鳥類としてノビタキの飛来が記録されているのが大変貴重です。

## 【は虫類】

- ・ニホンカナヘビのみでした。ヘビ類はまだ冬眠前のはずですが、9月から投稿が途絶えました。

## 【両生類】

- ・冬眠に備え餌を探して歩きまわっていることも多いのですが、アズマヒキガエルのみでした。

【対象の虫：チョウ・トンボ・セミ・カメムシ・ホタル・タマムシ・カブトムシ・クワガタ、バッタ】

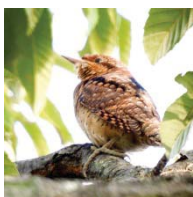
- ・チョウの投稿が多く、低地では珍しいウラギンヒョウモンやクモガタヒョウモンも届きました。
- ・子ども達に人気のコーカサスオオカブトは、小型ですが飼育しているものが逃げだした可能性があります。
- ・冬が近づくにつれて甲虫が見られなくなります。

【対象の野草：タンポポ・ジュウニヒトエ・ノアザミ・ヤマユリ・キツネノカミソリ・ゲンノショウコ・ワレモコウ・カラスウリ・タマノカンアオイ】

- ・9月に多かったワレモコウの投稿が0件である一方、今年はゲンノショウコの開花が長く見られたこともあり、投稿が続きました。

## 【その他】

- ・生息域が海岸に近い環境であるヒナカマキリは、町田で初記録ではないかと考えられます。
- ・青々とした葉が伸び出したばかりのヒガンバナの投稿がありました。
- ・市内でも、自生地に限られるオオバクサフジの投稿が特徴的です。
- ・アザミ類への訪花昆虫の写真の多さから、昆虫の吸蜜にアザミ類が大きな役割を果たしていることがわかります。
- ・コウヤボウキは、里山の雑木林の林床に見られる落葉小低木です。
- ・ミスジマイマイは、カタツムリの仲間ではもっとも一般的な種類です。



アリスイ



ニホンカナヘビ



オオバクサフジ



クモガタヒョウモン  
/タイアザミ



ヒナカマキリ

2020年  
11月

(アルバム p 79~83)

調査対象							その他	計
ほ乳類	鳥	は虫類	両生類	魚類	対象の虫	対象の野草		
	50	3			21	4	9	87件

#### 【鳥】

- ・オシドリ、オカヨシガモ、マガモ、オナガガモ、キンクロハジロなど、多様な水辺の冬鳥の到来が投稿されています。
- ・10月に続きバンの投稿が増え、オオバンも追加されました。
- ・サンショウクイ（亜種リュウキュウサンショウクイ）は2月に続く記録で、昨年あたりから各地で渡り途中の目撃事例が増えている鳥類です。
- ・ジョウビタキの投稿が10月からさらに増加し、冬鳥としてそれなりの個体数が飛来していることがわかります。
- ・ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、ホオジロ、アオジなどの投稿も出そろい、採餌活動に忙しい里で冬を越す鳥たちの様子が想像されます。

#### 【は虫類】

- ・ニホンヤモリは11月下旬の投稿ですが、気温の高い日々が続き、冬眠が遅れていることが推測されます。
- ・シロマダラは初投稿にして大変貴重な記録です。夜行性で日中は物の下や石の隙間に隠れているため、ほとんど見かけることは少ないヘビです。
- ・カナヘビは、モズのはやにえの餌食になった投稿で、庭先での観察事例も大変貴重です。

【対象の野草：タンポポ・ジュウニヒトエ・ノアザミ・ヤマユリ・キツネノカミソリ・ゲンノショウコ・ワレモコウ・カラスウリ・タマノカンアオイ】

- ・11月は植物が季節的に終盤を迎えているためもあり、カラスウリのみの投稿でした

#### 【その他】

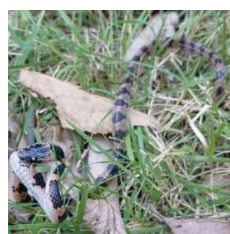
- ・ノジスミレ（またはコスミレ）は返り咲き状態のもので、この季節、タチツボスミレなどでもこうした現象がよく見られます。



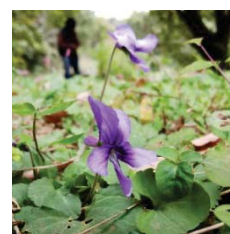
オシドリ



ジョウビタキ



シロマダラ



ノジスミレ  
(またはコスミレ)

# 2020年 12月

(アルバム p83~87)

調査対象							その他	計
ほ乳類	鳥	は虫類	両生類	魚類	対象の虫	対象の野草		
3	47				11	1	5	<b>67件</b>

## 【ほ乳類】

- ・ホンドタヌキは疥癬で毛の抜け落ちた個体です。市街地に住むホンドタヌキが高頻度でこうした皮膚病に罹患しているのか、たまたま疥癬個体の動作が鈍く、撮影されやすいのか、判断はできません。

## 【鳥】

- ・11月と12月の投稿と合わせると、町田の冬鳥の全体像が把握できる内容でした。
- ・初投稿のトモエガモは、近年減少傾向にあったカモ類ですが、今季は各地で目撃例が報じられ、ちょっとした観察ブームを招いています。
- ・カルガモとマガモの雑種は、各地の公園の池などで時折目にすることがあります。
- ・久しぶりのイソシギと、初めての投稿となるタシギが注目されます。
- ・セグロカモメも冬にしばしば投稿される鳥類です。ウミネコによく似ていますが、足の色（水中）が黄色ではなくピンク色です。
- ・メジロは、春とともに冬季での活発な行動が目立ち投稿があります。
- ・冬鳥として渡来する鳥種の多いヒタキ科ではツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキがそろって投稿されました。
- ・ハクセキレイ、セグロセキレイも、水辺での冬季の行動が目立つ鳥たちです。
- ・カワラヒワ、イカル、カシラダカ、アオジなども、冬鳥、あるいは漂鳥としての冬の里山の定番野鳥たちです。

## 【対象の虫：チョウ、トンボ、セミ、カメムシ、ホタル、タマムシ、カブトムシ、クワガタ、バッタ】

- ・ムラサキツバメやヒメアカタテハなど、成虫で越冬する種はともかく、幼虫越冬であるベニシジミが成虫でいるのは、暖冬の影響なのでしょうか。

## 【対象の野草：タンポポ・ジュウニヒトエ・ノアザミ・ヤマユリ・キツネノカミソリ・ゲンノショウコ・ワレモコウ・カラスウリ・タマノカンアオイ】

- ・カラスウリの実は晩秋からこの時期にかけてよく目立ち、2019年12月に4件の投稿がありました。今年は10、11月に比べて投稿が早々と終息してしまっただけです。

## 【その他】

- ・クビキリギスは成虫越冬ですが、この時期に珍しく幼虫の投稿がありました。
- ・ノハラアザミも年内のウメの開花も、12月の初旬から中旬にかけての暖冬傾向を反映しているように感じられます。



ホンドタヌキ



トモエガモ



ベニシジミ



クビキリギス